

平成23年度第4回（第9期第8回）小平市廃棄物減量等推進審議会  
会 議 次 第

平成23年11月1日（火）  
午後2時～  
健康センター4階第2・3・4  
会議室

- 1 開会
- 2 事務局報告
- 3 諮問事項の審議及び各分科会による審議
- 4 その他
- 5 閉会

配付資料

---

- 1 第7回廃棄物減量部会報告
  - 2 第7回適正処理の維持・向上部会報告
  - 3 第7回廃棄物減量等推進審議会議事録
-

- 会長 ただいまから、第8回目の会議を開会いたします。
- 事務局 それでは事務局報告からお願いします。
- 事務局 2点ご報告させていただきます。10月8日土曜日に小平・村山・大和衛生組合において第9回えんとつフェスティバル2011が午前10時から午後3時まで開催されました。当日は天気に恵まれ、多数の方のご来場をいただきました。本年度は3市で情報コーナーを設け、小平市では食物資源循環モデル事業の広報をさせていただきました。
- 事務局 2点目といたしまして、10月16日日曜日に第36回小平市民まつりが午前9時30分から午後4時30分まで開催されました。こちらも当日は天気に恵まれ多数の方のご来場をいただきました。小平市ごみ減量推進実行委員会がごみ減量・リサイクル推進コーナーを出展し、パレードにも参加しごみ減量啓発に努めました。以上でございます。
- 会長 事務局報告について質問はありますか。なければ分科会に入る前に今後の進め方と次回の日程を先に決めておきたいと思えます。今日が第8回で後2回会議を行う予定です。分科会でそれぞれ話をして、すり合わせは後でやりましょうということになっていて、今日の分科会でそれぞれ話したことは次回報告していただくとして、次回はまとめに入りたいのですが、もしよければ会長、副会長と事務局でたたき台を作ってみて、次回の会議の前にそれに沿って直す部分や追加する部分を話合いたいと思えますがいかがでしょうか。今日は分科会のまとめをやって、次回までに会長、副会長、事務局で骨子というか素案を作っておいて次回の会議の前にお配りして、当日はそれに則って会議では追加、修正の議論をいただいてまとめていくということで進めさせていただきます。12月中旬までに会長、副会長の意見のまとめを事務局に渡して対応してもらおうということできたいと思えます。
- 事務局 次回の日程は1月18日水曜日午後2時から本日より同じ会場ということでお願いします。
- 事務局 前回欠席された委員の方から意見をいただいていたのですが、何か補足はありますか。
- 委員 本日の話し合いの中で意見を述べたいと思えます。
- 会長 分科会で討議を始めますが、分科会の中でこれは大事というようなものを考慮しながら今日の議論をしていただきたいと思います。後で取りまとめがしやすいと思えますのでお願いいたします。それでは前回の分科会報告をお願いいたします。
- 事務局 別添の廃棄物減量部会報告と適正処理の維持・向上部会報告をご覧ください。
- 会長 何か質問などがありますか。
- 委員 建替えの問題に関しまして、もっと広域化ということは考えられないでしょうか。例えば小平市中島町にある焼却場と小川橋にある立川市の焼却場を広域化して3市ではなくて5市、6市というような形で広域化というのはどうなんでしょうか。そのほうが設備の稼働率とか設備の投資額とかいろいろな問題でもう少し思い切ったことができるのではないかと。もう一つは埼玉県寄居町に行ったときに可燃ごみを最終的にペレット状の固形燃料にして製紙会社に売っているという話がありますが、ああいう設備はどれくらい費用がかかるかわかりませんが、そういうことも検討する必要が建替えに併せてあるのかなと思えます。
- 会長 小平市のごみの基本計画と3市共同の中間処理施設を持っているという関連についての解説と今回の方針の位置付けを事務局から説明願います。

- 事務局 歴史的なところで言いますと、小平で焼却場を作り、湖南という処理施設が武蔵村山市にありましたので、そういう面では3市近隣同士でお互いの施設をいっしょに使用しようということで今まで続いているという状況です。併せてリサイクルという面でここで新たにごみ処理の一つの方法の位置付けというものができたので3市共同でやったほうが効果的ということで検討しています。今ある形をもっと広域的にというところでは東京都の方からもそういう話が出ているところもあります。ただなにぶんにも今日も新聞を賑わしているように、小金井1市、あるいは小金井市、国分寺市で共同ということでもあれだけの問題になっている状況の中で、例えば立川市で焼却するか小平・村山・大和衛生組合がある中島町でやるのか、あるいはまったく違うところでやるのかという選定の問題と近隣住民のご理解という新たな問題がどうなるのかという広域化の難しさもあろうかと思えます。小平市の基本計画を作る上で、広域化という考えもあろうかと思えますが、そこまで拡大して他の市のことまで入れるところまでできるかどうかというところがあるかと思えます。今ある3市が焼却も資源もということでいっしょにやっているの、3市のすり合わせは出てくると思えます。それ以外の広域的なところについてはこういうことも考えられるというところに留めた方がいいのではないかと思います。
- 委員 ペレット化の問題とかを考えていくとそれはやはり広範囲でやったほうがいいのではないかと。相当な設備費がかかったりすると思えます。
- 事務局 ケミカルとか生ごみのガス化とかの設備は非常に高額ですし、RPF（固形化燃料）をやっているところも補助金をもらって10年位前からやっていますが、実態として固形燃料がうまく売却できなくて残ってしまって、すごい負担になっているということが地方の焼却施設で問題になっています。寄居町ではうまくできているところがあるのですが、全体的に見ると固形燃料などは難しい状況です。
- 委員 生ごみ堆肥について、使用拡大を考えるならば市内の農業事業者が使用できるようなものを作っていくということと事業者と行政が話し合いをすることが必要でないかと思えます。部会ではそういうことを含めて考えていいのでしょうか。
- 会長 方法論としては農家の人と話し合ったり販売ができたりといろいろあろうかと思えますが、基本計画では拡大の方向性だけ答申には入れておいて、具体的には次の実施のレベルでいろいろな方法があるということで理解していただければと思います。
- 委員 焼却炉の規模につきましては、大規模であればいいというものではなくて、適正規模というものがあると思えます。表現としては部会報告の表現でいいのではないかと。
- 事務局 延命化については一応32年までは確実にもちますというところまで決まっていますが、あの場所が絶対ということが決まっている状況ではないです。
- 委員 技術革新がどんどん進んでいるので焼却炉も今のレベルから10年先にどれだけ進化しているかわからない。そういう動向を調べて必要な段階で最終決定するというのはどうなのでしょう。
- 会長 そのへんについては、建替えの進め方について部会報告で注文をつけているので、なるべくオープンにして議論をしてほしいという希望が盛り込まれています。それでは分科会の議論に移りたいと思えます。  
※分科会の内容については次回の審議会議事録に掲載する予定です。